

注目情報

製品中の有機フッ素化合物(PFAS)分析はお任せください！

製品中の有機フッ素化合物(PFAS、ピーファス)は、POPs条約^{※1}、REACH規制、化審法^{※2}による規制の対象になっています。今後も規制が強化される予定であり、分析のニーズが高まっています。

当社では、製品中のPFASについて、以下の項目の分析を承っています。

項目 分析方法: 溶媒抽出-LC/MS/MS法 (CEN/TS 15968 準拠)	略称 (読み方 又は 別名)	定量下限 (ppb)
ペルフルオロオクタンスルホン酸	PFOS (ピー-フオス)	5
ペルフルオロオクタン酸	PFOA (ピー-フオア)	5
ペルフルオロヘキサンスルホン酸	PFHxS (ピー-エフヘクスエス)	5
ペルフルオロヘキサン酸	PFHxA (ピー-エフヘクスエー)	5
ペルフルオロカルボン酸類 (C9-C14) ^{※3}	C9-C14 PFCA _s	5
C9: ペルフルオロノナン酸	PFNA (C9-PFCA)	2
C10: ノナデカフルオロデカン酸	PFDA (C10-PFCA)	5
C11: ヘニコサフルオロウンデカン酸	PFUnDA (C11-PFCA)	5
C12: トリコサフルオロドデカン酸	PFDoDA (C12-PFCA)	2
C13: ペンタコサフルオロトリデカン酸	PFTTrDA (C13-PFCA)	2
C14: ヘプタコサフルオロテトラデカン酸	PFTDA (C14-PFCA)	2

※1 残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

※2 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

※3 ペルフルオロカルボン酸類のうち、炭素数が9から14のもの

PFASは耐水性、耐脂性、防汚性などに優れた特性を持つため、コーティング剤、界面活性剤、表面処理剤など様々な用途に使用されてきました。

PFASはこんなところに使われています

泡消火薬剤	台所器具	包装製品	繊維品
電子機器	潤滑油	車部品	その他製品

ご不明な点は、分析担当者 長谷川、田沼(フリーダイヤル 0120-01-2590 内線 330、224)までお気軽にお問い合わせください。

